

『燦燦』記念日

2021. 11. 11

今日は、11月11日である。令和1年11月11日に、この「校長室だより～燦燦～」はスタートした。福島県立梁川高等学校に勤務するようになり、11月2日（土）に「創立百周年記念式典」を無事に終了させることができた。校長として、とりあえずほっと胸をなでおろしたタイミングで、沸々と何か新たなことをしたくなったのである。

あの頃から、毎日読んでくださる熱心な読者がたくさんいた。梁川高校でお世話になった野球部の監督であり、生徒指導主事であったNT先生は、新たな勤務校で野球部監督として活躍している。7月には、久しぶりにLINEでメッセージが届いた。そこには「今日の朝日新聞に夏の大会で敗戦した監督のコメントで記事が載りました。校長先生のおかげで野球ができることに感謝しております」とあった。感謝しているのは私のほうである。彼が転勤する際にいただいた手紙のおかげで私は救われたのである。朝日新聞の彼のコメントを見た。彼らしいものだった。うれしかった。

家庭科のNM先生には、お世話になったし、よく二人で校長室で泣いていたのではない。お互いにいい話、エピソードがあり、感極まって涙していたのである。それが度々あった。ハートのある人だった。人一倍、人のために苦しむ人だった。もうNM先生のような人には会えないだろう。校長室にくる度に、私と泣いて帰る人など、そうそういるものではない。私は、NM先生のことを心配である。なぜなら、人のために本気で考え、悩み、行動する人だからである。

梁川高校よりも前からの付き合いであるNS校長は、今でも毎日読んでくれているのだろうか。毎日読むことができるというのが、その人の力であり、感性が豊かでないと読み続けることはできないと思う。私が、読むほうの立場であったら、たぶん読み続けることはできないと思う。だから、毎日読んでくださる多くの皆様には、頭が下がる思いである。

今日で、ちょうど丸2年である。455号となった。こんなに続けるつもりはなかった。続くとも思っていなかった。「よく毎日書くことがありますね」と言われる。「心が動けば書きます」と答えるようにしている。

本当は、“自己鍛錬”のためである。人間修行のためである。書くことにより、アウトプットする。すると、その分、インプットしなければならない。そうしなければ、毎日書き続けることは難しい。もはや、書きたいことがいっぱいある、書きたくて仕方がないという状況は、とっくに過ぎ去っている。それでも、なぜだか書き始めると、思考が進み、原稿が出来上がる。そんなこんなで2年が経過した。

野田中学校に勤務するようになり、新たな読者がたくさんできた。素敵な出会いにも恵まれている。時々、反響もある。それが励みにもなっている。今日は、一つの節目ではあるが、ゴールではない。今回紹介したお三方は、偶然にも「N」先生である。これも何かの縁であろう。3人のN先生への感謝の気持ちを新たに、『燦燦』3年目へと突入することとする。